

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	知識共有を促進するためのインセンティブ使用法の理論化：新興スタートアップの場合
Title(English)	Theorizing Incentive Usage to Encourage Knowledge Sharing – Case of Young Startups
著者(和文)	LaitinenJouniAnter
Author(English)	Jouni Laitinen
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11322号, 授与年月日:2019年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:妹尾 大,飯島 淳一,井上 光太郎,鈴木 定省,福田 恵美子
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11322号, Conferred date:2019/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Industrial
Department of engineering and 専攻
management
学生氏名： Laitinen, Jouni Antero
Student's Name

申請学位（専攻分 博士
野）： Doctor of (Philosophy)
Academic Degree Requested
指導教員（主）： Senoo, Dai
Academic Supervisor(main)
指導教員（副）：
Academic Supervisor (sub)

要旨（和文 2000 字程度）
Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は「Theorizing Incentive Usage to Encourage Knowledge Sharing - Case of Young Startups」（知識共有を促進するためのインセンティブ使用法の理論化：新興スタートアップの場合）と題し、以下の7章よりなる。

第1章「Introduction」（序論）では、スタートアップ企業における知識共有について述べられており、2つの研究課題にとりくむことが宣言されている。（1）知識共有を促進するためのインセンティブ制度をどうやったら構築できるか、（2）新興スタートアップの知識共有に影響をあたえる要因は何か。

第2章「Literature Review」（文献レビュー）では、知識と知識共有についての先行研究、動機づけについての先行研究、およびスタートアップを対象にした先行研究をレビューして、本論文の対象範囲と鍵概念を明確にしている。

第3章「Incentives, Motivation and Knowledge Sharing」（インセンティブ、動機づけ、および知識共有）では、インセンティブに対する旧来のアプローチを検討し、新たなフレームワークを提案している。そして、過去に報告されているインセンティブ制度の事例を再分析している。

第4章「Knowledge Sharing Motivation In Startups」（スタートアップにおける知識共有の動機づけ）では、香港と日本で10人の設立者へのインタビュー調査を実施している。その分析結果から、（1）スタートアップのビジョン（2）活動に対する基本的な動機づけ、の2点が知識共有にとって重要であることを発見している。

第5章「Influence of Organizational Culture and Vision for the Company on Knowledge Sharing Motivation」（組織文化と会社のビジョンが知識共有の動機づけに与える影響）では、先行研究と第4章の研究結果を組み合わせた上で、知識共有の動機づけについての仮説的フレームワークを構築し、111社のデータを取集・分析して仮説を検証している。検証の結果、組織文化と会社のビジョンは知識共有の動機づけに影響を与えているが、知識共有の動機づけのうち外発的な動機づけについては知識共有の意図に影響を与えていないことを発見している。ここから、知識共有を促進するためのインセンティブ制度を設計する際には、外発的な動機づけではない方法を利用すべきだと提案している。

第6章「Combining the Two Frameworks」（二つの枠組みの結合）では、第3章、第4章、第5章の研究結果を組み合わせ、新興スタートアップでの知識共有を促進するインセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークを設計している。さらに、そのインセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークの利用方法を例示することで、特定の文脈でいかに知識共有のインセンティブ制度を設計するかについて考察している。

第7章「Conclusions and Future Research」（結論と将来研究の展望）では、研究課題への回答の形で結論がまとめられている。第1の研究課題である、知識共有を促進するためのインセンティブ制度をどうやったら構築できるか、に対しては、インセンティブ・カスタマイゼーション・フレームワークが回答となっている。インセンティブ制度の設計者は、実際のインセンティブに関する要素だけでなく、個人レベルの要素に加えて、短期的行動と長期的行動の両方にシステムがどのように適合するかについても考慮する必要があることが強調されている。第2の研究課題である、新興スタートアップの知識共有に影響をあたえる要因は何か、に対しては、実証研究によって更新された知識共有の意図に影響する因果モデル的フレームワークが回答となっている。ここでは会社のビジョンと共同体で共有しあう組織文化が、援助行動の楽しみや相互利益の規範といった内発的動機づけを通じて、知識共有の意図を高めるというモデル上の経路が示されている。本論文の限界と将来研究の展望についてもこの章で述べられている。

以上のように本論文は、新興スタートアップ企業において知識共有を促進するためのインセンティブ使用法を、理論的考察と実証分析の双方によって理論化したものであり、従来のインセンティブ研究およびスタートアップ経営研究で明らかにされていなかった知見を導出しており学術的な貢献が大である。イノベーションを効率的に創出するために重要となる知識共有活動は、個人の自発的活動であるため、マネジメントによる直接的介入が困難でありインセンティブ制度の設計を通じた間接的介入が必要となる。理論を具体的なインセンティブ制度の設計の提案につなげている本論文は、実務的な貢献も大きく、経営工学分野の研究成果として高く評価できる。よって本論文は、博士（学術）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。
Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。
Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(博士課程)
Doctoral Program

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻：	Industrial	専攻
Department of	engineering and	
	management	
学生氏名：	Laitinen, Jouni Antero	
Student's Name		

申請学位（専攻分	博士
野）：	Doctor of (Philosophy)
Academic Degree Requested	
指導教員（主）：	Professor Senoo, Dai
Academic Supervisor(main)	
指導教員（副）：	
Academic Supervisor(sub)	

要旨（英文 300 語程度）

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This dissertation, titled “Theorizing Incentive Usage to Encourage Knowledge Sharing - Case of Young Startups”, knowledge sharing motivation is discussed from the perspectives of antecedents to motivation and the use of incentives to encourage knowledge sharing. In the first part of the dissertation, literature related to knowledge, motivation and startups is reviewed before a novel incentive customization framework is developed. The developed framework is then used to analyze previously published incentive systems. The created framework adds to the body of research regarding the incentive use as the tool is industry and sector agnostic and therefore has a variety of applications both in academia and in business.

In the second part, the focus of the dissertation shifts to motivation of founders and employees in young startups. As there is currently a research gap regarding knowledge sharing motivation in young startups, case studies are detailed to create a foundation for a theory regarding knowledge sharing motivation in young startups. Next, a larger survey is used to build on the foundation and as a result, a first model of knowledge sharing motivation in young startups is created and validated. The results of the survey also contribute to the body of knowledge regarding incentive usage by clarifying reasons why previously studies on incentive usage to encourage knowledge sharing have resulted in mixed results.

In the last part of the dissertation, these two streams of research are combined to create a foundation for incentives used to encourage knowledge sharing in young startups. The combination of the two streams of research adds to the body of knowledge of management in young startups.

This dissertation contributes to the body of knowledge regarding knowledge management and young startups. Additionally, the results have implications also to practitioners, who can use the created incentive customization framework and the knowledge sharing motivation model to guide their organizational practices.